

## 2024年度 第1四半期決算説明会 主な質疑応答

日時:2024年7月25日(木)15:30~16:30

### **全体**

Q: 1Q 決算の社内計画比は。

A:

・1Q 売上高は 50 億円強の上振れ、営業利益は 30 億円程度の上振れ。セグメント別には、食品流通、半導体、インダストリーで上振れ、エネルギーの売上高は下振れ。

Q: 上期の業績予想について、為替などの外部要因を除いた上振れ要因はあるか。

A:

・食品流通や、エネルギーのエネルギーマネジメント、施設・電源システムなどで上振れの余地があると見ている。

Q: 営業外損益が 1Q の増益に対して、上期業績予想では-25 億円の減益となる理由は。

A:

・2Q の減益は前提為替レートに戻している影響による。上期末まで現状レートで推移した場合、2Q も為替影響による上振れがある。

### **エネルギー**

Q: 海外売上高において、アジア他の発電プラントが対前年で増収となった理由は。また、増収は継続性のあるものなのか。

A:

・昨年度に東南アジアで受注した案件の売上計上により増収となった。発電プラントの受注は想定範囲内で堅調に推移している。今年度も案件が控えており、受注活動を継続する。

Q: エネルギーマネジメント、施設・電源システムのデータセンター向け電源設備の受注動向は。

A:

・施設・電源システムのデータセンター向けは、1Q を含めて伸長している。エネルギーマネジメントは、産業変電でお客様の設備更新需要を獲得できており、伸長している。

Q: 2026 年度中期経営計画では、外資系ハイパースケールデータセンター向け投資による需要増を織り込んでいなかったとのことだが、足元の状況は。

A:

・多くの引き合いをいただき受注に繋がっており、2026 年度中期経営計画値からの大幅な上振れを見込んでいる。今後も継続的な受注拡大に向けて積極的な提案を推進する。  
・国内の既存顧客とともに海外のデータセンター向け新製品の開発(当社システムのコンパクト化)に取り組んでいる。

Q: エネルギーマネジメント、施設・電源システムにおける 1Q 営業利益の前年比は。

A:

- ・エネルギーマネジメントは大きく増益となった一方、施設・電源システムは海外での電機盤の大口案件の減少により減益となった。

Q: エネルギーの 2Q が前年比で増収増益の計画となる確からしさは。

A:

- ・器具は計画比で下振れとなる見通し。一方、エネルギーマネジメントや施設・電源システムは昨年度を上回る受注に伴う売上増等により、前年比で増収増益を見込んでいる。

## インダストリー

Q: 低圧インバータの 1Q 受注が対 4Q で減少した理由は。

A:

- ・海外の顧客が在庫を絞っている影響が出ている。また、当社の納期も正常化し、以前に比べてお客様の先行発注が抑えられていることも影響している。

Q: プロセスオートメーションの 1Q 業績が好調だった要因と 2Q 以降の見通しは。また、営業利益率は、通常よりも好転したのか。

A:

- ・プラント案件の 1Q は前年度の受注残の確実な出荷がベースとなる。加えて、当期受注・当期売上の中小口案件が計画以上に獲得ができ、サービス案件も含めて増収増益となった。2Q 以降も傾向は変わらないとみており、年間を通して更に積み上げていきたい。1Q の営業利益率に大きな変化はない。

## 半導体

Q: 半導体の 1Q 受注(対 4Q)、2Q 受注見通し(対 1Q)は。また、業績予想を下方修正した理由は海外 BEV 向けの需要減によるものか。国内の電装向けや産業向けの事業環境に変化はあるか。

A:

- ・1Q 受注(対 4Q)は全体で減少した。産業向けは為替影響を除き実質増となった。電装向けは、BEV の伸び悩みに加え、中国で日系・欧米メーカーが苦戦した影響により、一部で在庫調整があり対 4Q で 5%減少した。
- ・2Q 受注(対 1Q)は全体で 5%程度増加する見通し。電装向けは 1Q の在庫調整が解消し、対 1Q で約 20%増、産業向けは為替影響を除き 5%程度増加する見通し。
- ・上期・通期売上高を 40 億円下方修正した理由は、欧米メーカーにおける BEV 需要の減速と中国での苦戦によるもの。
- ・事業環境について、日系メーカーの BEV 減速影響は軽微であり、HEV の需要は堅調に推移している。産業向けは、足元では大きな影響はないものの、下期に向けて中国向けの需要動向を精査する必要がある。

Q: 半導体の2Q見通しが対1Qで増収減益となる理由は。上期業績予想を下方修正した理由は2Qの業績予想を反映したという理解で良いか。

A:

- ・2Qが対1Qで減少する理由は、10億円程度の為替悪化影響によるもの。1Qの電装向けは社内計画比で若干の下振れ、2Qもあわせて40億円下方修正した。生産減の影響を受け、2Qも若干多く調整する予定であり、2Qは対1Qで減益となる見通し。

Q: 日系自動車メーカーの品質不正問題による生産減の影響はあるか。また、在庫調整が1Qで解消し、電装向けの需要が2Q以降に回復する要因は、顧客の生産回復によるものか。

A:

- ・当社への影響は若干あるものの、大きな影響ではない。当社計画は2Qからの生産回復を織り込んでいる。
- ・在庫については、もともと在庫過多の状況ではなく、1Qで調整は終了し、2Qから正常化すると見ている。

### **食品流通**

Q: 自販機、店舗流通がそれぞれ増益となった要因と2Q以降の継続性、見通しは。店舗流通の上振れは純粋な上振れか、前倒しも含まれているのか。

A:

- ・自販機は、1Q対計画で若干上振れた。2Q以降の物量はほぼ計画通り。損益は、原価低減または高付加価値化を進めていき、この体質を維持していく。
- ・店舗流通は、1Q対計画で改刷特需が主要因となり、上振れた。改刷特需の規模感は、2023年度4Qから始まり、1Qをピークに売上増となった。計画では改刷需要で売上約20億円強をみていたが、上振れて、約40億円強の決算となった。ソフト対応またはハードの交換需要ともに上振れた。
- ・2Q以降は、改刷対応で約20億円弱をみているが、ほぼ計画どおりとみている。1Qの状況より、若干の上振れがあると考えている。上振れ分は、通期で残り、純増となる見通し。

以 上